

第5学年 社会科学学習指導案

1 小単元名 「情報を活用して発展する販売産業」（8時間）

2 小単元の目標と観点別評価規準

(1) 小単元の目標

情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめること。

(2) 小単元の観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程の どこで
主体的に学習に取り組む態度	Ⅰ 販売等の産業と情報との関わりについて、主体的に学習問題を解決しようとしている。 Ⅱ 情報を活用した産業の発展に関心をもつとともに、適切な情報を見極め、生活の中で情報を効果的に活用していこうとしている。	①つかむ ⑧つなげる
知識・技能	Ⅰ 多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信して活用することで、販売等の産業が変化していることについて、資料を読み取り理解している。 Ⅱ 聞き取り調査をしたり各種の資料やインターネットを使って調べたりしたことを関連図にまとめている。 Ⅲ 国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを享受でき、生活が向上していることなどを基に、情報や情報通信技術を活用する販売等の産業の役割について理解している。	②～④ 調べる ⑥つなげる ⑤まとめる ⑦つなげる
思考・判断・表現	Ⅰ 販売に関する産業について、情報の種類や情報の活用の仕方等に着目して産業における情報活用の状況を考え、表現している。 Ⅱ 情報を生かして発展する産業と国民生活を関連付けてその役割について考え、表現している。 Ⅲ 産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめている。	⑤まとめる ⑦つなげる ⑧つなげる

3 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、学習指導要領第5学年（4）のアの（イ）（ウ）及びイの（イ）に基づく内容である。ここでは、情報通信技術を活用している事例として販売産業を事例として取り上げ、ビックデータを収集・分析・活用することを通して販売などの産業が発展し、国民生活の向上に役立っていることを追究するとともに、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について自分の考えをまとめる学習展開を考えた。

【学習指導要領 第5学年】

2 内容

(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

3 内容の取扱い

(4) イ アの(イ)及びイの(イ)については、情報や情報技術を活用して発展している販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業の中から選択して取り上げること。その際、産業と国民の立場から多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えをまとめることができるよう配慮すること。

(2) 教材について

本小単元の学習を通して「大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させている」という社会的事象の意味を考えられるようにしていく。まず、事例を選択するにあたって、学習指導要領の内容から以下の4つの観点に基づき分析し、選択した。

	事 例	大量の情報を収集 (位置・検索・販売・気象)	情報通信技術の活用 (AI・IoT・VR・AR)	第3次産業の発展 (売り上げ・サービスの質・利用者数)	情報の発信や国民生活との関連
販売業	A社(コンビニエンスストア)	・ビックデータ ・POSレジシステム ・電子マネー(ポイントカード) ・アプリ ・品質向上委員会	・ストアコンピュータ ・情報活用システム ・研究所	・売り場の写真 ・店舗数の増加 ・PB商品の売り上げ向上	・テレビCM ・企業HP ・区内のコンビニ分布図 ・電子マネー(ポイントカード)
	B社(A社を傘下におく、大手流通グループ企業)	・POSレジシステム ・電子マネー(ポイントカード) ・各会社のアプリ ・総合通販サイト	・各社の本部マーケティング部 ・研究所	・ネットとリアル融合(郵送・店舗受け取りの実現) ・通販サイト利用者数向上 ・通販サイトを通じた売り上げ向上	・総合通販サイトHP、アプリ
	複数企業間のデータ活用に関する研究会	・B社グループ以外の異業種企業、計11社より顧客行動	・行動履歴分析 ・新たなニーズの開拓	・新規サービスの開拓 ・アプリやネットサービスの向上	・各アプリ

本小単元で取り上げる主な教材として、「大量の情報の収集の様子」「情報活用による産業の発展と、それに伴う国民生活の利便性の向上の様子」を取り上げることとした。

① POSレジシステムと電子マネー(ポイントカード)

事例に選んだコンビニエンスストアでは、大量の情報をPOSレジシステムと電子マネー(ポイントカード)から主に収集している。POSレジシステムからは、バーコードを読み取ることで「どの商品をいつ、い

くらで、いくつ、どのような組み合わせで販売したのか」を把握できる。さらには、天候や客層ボタンの入力により、どのような日に、どのような年齢層の客が利用するかまで把握できるシステムになっている。A社の電子マネーの会員数は2017年時点で5300万人を超え、どのような人が、どの商品をいつ、どこで、いくつ購入したか、また購入頻度についても把握できるシステムになっている。これらの情報を本社のホストコンピュータで管理し、商品発注等に活用している。また、アンケート調査やインタビュー調査など、アナログな情報収集も昔から引き続き行い、情報システムと掛け合わせながら商品開発等にも活かされている。

② 質の高いPB商品の開発

近年、コンビニ・スーパーマーケット各社で、PB商品（プライベートブランド商品）が開発され、販売されている。A社は、より質の高い商品の開発を求め、グループ独自の商品として2007年に新たなブランド商品を誕生させた。その後も開発を続け、2010年、さらにワンランク上のブランド商品を誕生させた。A社では、それまでにないコンセプトに基づいて開発したこれらのPB商品を、圧倒的に品質を高めた新しいブランドとして展開することで、より幅広い客層、多様なニーズに対応するとともに、新たなマーケットを開拓している。また、社内に品質向上のための委員会をつくり、常に利用者の声を聞きながら、商品をリニューアルし続けている。

③ 総合通販サイト

リアル（店舗販売）とネット（ネット販売）の融合を実現させたものが、B社の展開する総合通販サイトである。A社をはじめ、B社のグループに含まれる計7社の商品・サービスを提供している。パソコンやスマートフォンを利用したり、電話で店舗に注文したりすることで、商品を購入できるサービスである。また、ネットで購入し、近くのコンビニ店舗で受け取ることもできれば、自宅に配送もしてくれる。自分の都合に応じて買い物ができるため、買い物に行けない高齢者や、子育てで忙しく買い物に行けない人、一人暮らしで家を知られたくない人など、様々なニーズに対応することができる。

(3) 児童の実態について

本学級は、85%の子どもが塾に通っており、知識が豊富な子どもが多い。しかし、社会的事象に対する予想や考えを記述することを苦手としている子どもがいた。そこで、子どもたちが知らないような様々な社会的事象と出合わせ、調べる活動を通して、自分の考えをもつことができるよう十分な時間を確保したり、友達と交流を図らせたりすることをしてきた。その結果、社会的事象に対する興味・関心が高くなるとともに、社会的事象に対して自分ごととして考えるような社会参画の意識も芽生えている子どもが多くなってきた。

本小単元に関わる子どもの実態を把握するために、コンビニエンスストアやインターネットについて意識調査を行った。（32名実施）

1 コンビニエンスストアに行きますか。

よく行く…4名 まあまあ行く…17名 あまり行かない…11名 全く行かない…0名

2 コンビニエンスストアでどのようなことをしますか。（複数回答可）

買い物…32名 コピー…3名 写真をプリント…1名 トイレ…1名

3 コンビニエンスストアは、便利だと思いますか。

はい…29名 いいえ…3名

「はい」の理由…近い、すぐに買い物ができる、店がたくさんある、24時間営業、値段が安い、
気軽に行ける、コピーできる、物が見つけやすい

4 家庭でインターネットを使ってどのようなことをしたことがありますか。（複数回答可）

調べもの…25名 ゲームをする…18名 動画を見る…12名 SNS…7名
ニュースを見る…3名 読書…1名 買い物…1名

5 インターネットは、便利だと思いますか。

はい…28名 いいえ…4名

「はい」の理由…すぐに調べられる、大体のことが調べられる、ゲームや動画が楽しい、買い物できる

6 インターネットを使うときに、どのようなことに気をつけていますか。

・ウイルスにかからないようにしている。 ・詐欺にあわないようにしている。
・お金がかかることをしない。 ・怪しいサイトを見ない。 ・約束を守る。

意識調査から以上のような結果が出た。1, 2, 3の結果を合わせて考えると、全ての子どもがコンビニエンスストアで買い物の経験があることと、大半の子どもが便利だと感じていることが分かった。しかし、

コンビニエンスストアにおけるネット通販に関しての記述はなく、子どもたちにとって馴染みがないことが分かった。また、4、5、6の結果を合わせて考えると、インターネットの利用は多いが1名以外はネット通販を利用したことがなく、その利便性についても理解していないことが分かった。インターネットを使ううえで気をつけていることでは、ウイルス感染についての記述が一番多かった。普段から個人情報の流出についての話が聞こえてくるほど気を遣っている様子うかがえる。このような実態を踏まえて、本小單元では、子どもたちが身近に感じているコンビニエンスストアを中心とした販売業の様子を通して、販売業が情報を活用しながら発展していることとともに、その発展が自分たちの生活の利便性を高めていることを実感させていく。

4 研究主題との関連

よりよい社会について考えようとする子どもの育成
～国土や産業の姿を追究し、社会の未来について考えようとする子どもを育てる指導の工夫～

(1) 研究主題について

本小單元では、5年部会の副主題を次のように捉えた。

① 国土や産業の姿を追究している。

国土や産業の姿を追究するとは、「子どもが資料から我が国の情報産業（本小單元では販売業）の様子を的確に捉え、それをもとに目に見えない社会的事象相互の関連や意味も含めて理解を深めていること」と捉えた。例えば、多様で大量の情報を活用する姿を、店舗数や売り上げを増やしている商品開発や新サービスの提供を通して捉えさせることで、ビックデータについての理解が深まると考える。

② 社会の未来について考えようとする。

本小單元では、「社会の未来について考えようとする」子どもの姿を、「自分の生活と情報産業との関わりを深く意識していなかった子どもが、大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信して活用している販売業の取り組みについて学ぶことで、情報産業に対する理解が深まるとともに、これからの情報産業のあり方について、自分との関わりを意識して考えるようになること」と捉えた。

そこで、本小單元の学習問題に対する自分の考えをまとめたあとに、運輸・観光・医療の取り組みも学ぶことで、「情報を活用して産業が発展することが、私たちの生活の向上につながっている。私たちの生活が、大量の情報を分析・活用することに関わる人の働きで成り立っているから、もっと発展していったほしい。」など、自分たちの生活の今後を意識した考えが出ることが、児童が「社会の未来について考えようとしている」姿だと考える。

さらに、A社の電子マネーの申込書にある利用契約書について調べることで、私たちの情報は、いつの間にか誰かに使われている可能性があることを知り、適切な情報を見極め、生活の中で情報を効果的に活用していこうとする意識も育てていきたい。

本小單元において目ざす児童像

- 多様で大量の情報を情報通信技術で瞬時に収集・発信して活用することで、販売等の産業が変化し発展していること、国民がコンピュータや携帯電話などの情報通信機器を利用することにより、いつでも、どこでも様々なサービスを享受でき、生活が向上していることなどを基に、情報や情報通信技術を活用する販売等の産業の役割について理解するとともに、各種資料を通して情報を適切に調べまとめる児童。
- 販売に関する産業について、情報の種類や情報の活用の仕方等に目して産業における情報活用の状況を捉え、その働きを考え表現したり、産業と国民の立場などから多角的に考えて、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について、自分の考えを表現したりする児童。
- 社会的事象から学習問題を見出し、意欲的に追究して解決しようとするとともに、適切な情報を見極め、生活の中で情報を効果的に活用していこうとする児童。

(2) 研究内容について

本小單元では、以下の3点に焦点を当てて授業づくりを進めた。

① 社会生活について理解を深め、社会との関わりを考えられる教材の工夫

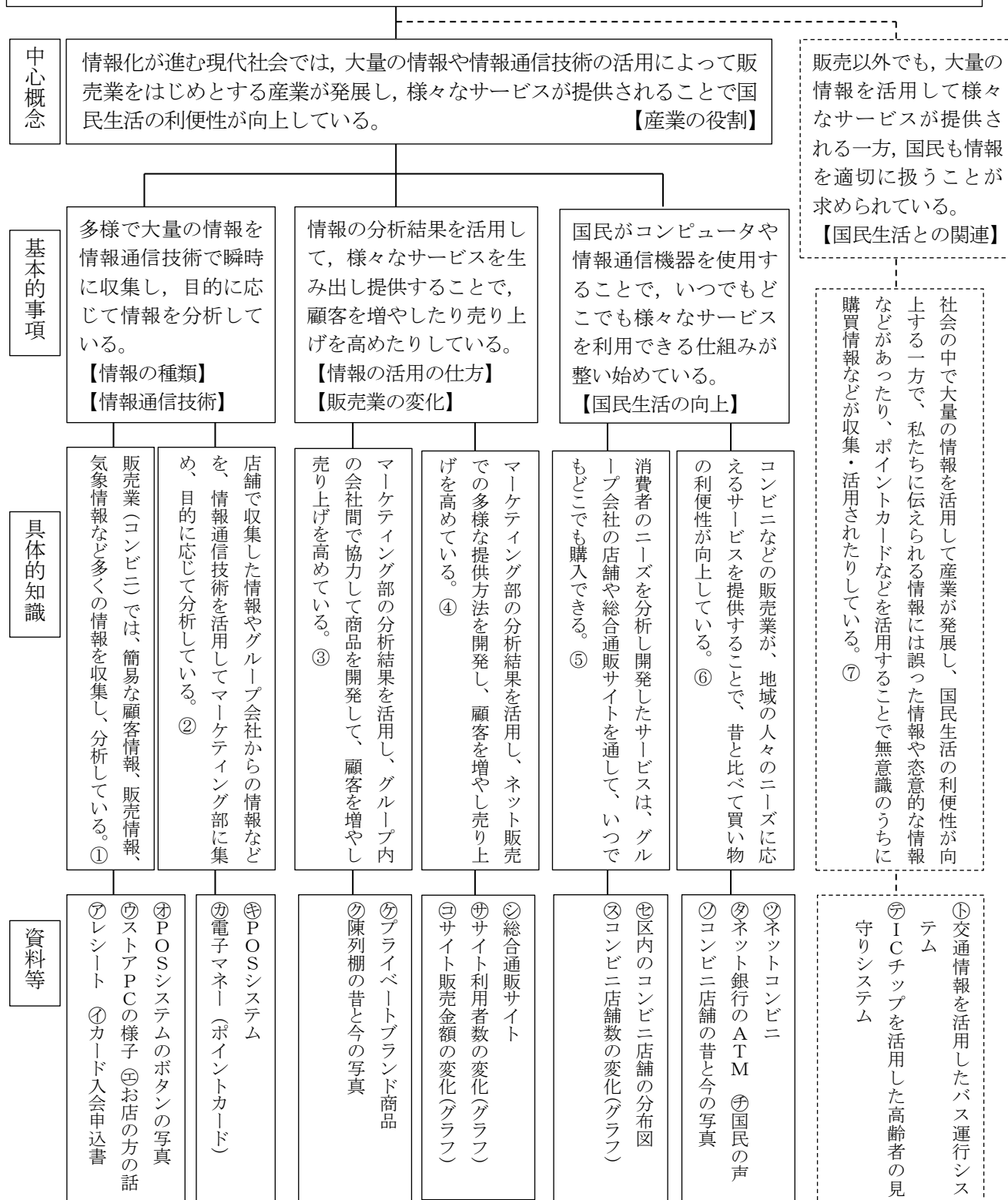
本小単元で扱う「情報や情報技術を活用して発展している産業」の見方・考え方(視点や方法)を位置付けた教材構造図を作成する。

学習指導要領

内容(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

イ (イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。



② 教材構造図との接続を図って目ざす児童像に迫るために「問いの構造」を下段のように想定した。

本小単元における問いの構造		【 】学習指導要領の視点や方法 () 部会で追加した視点 < > 部会で追加した方法		
過程	問い	視点・方法	知識	資料
つかかむ	問い 今のコンビニは、昔と比べてどのようなちがいがああるのか？	【販売業の変化】		資料⑦
	・コンビニで売っているものはどう変わったのだろう。		知識⑥	資料⑦
	・コンビニでの買い物の仕方や売り方はどう変わったのだろう。	<比較>		資料⑦
	・買い物以外に何ができるようになったのだろう。			資料⑦
調べ	問い プライベートブランドの商品はどうやって開発されたのか？	【販売業の変化】	知識③	資料⑦
	・どうして高いのに売れているのだろう。			
	・どうして商品が開発できたのだろう。			
	学習問題 コンビニエンスストアは、利用者を増やすために、どのように情報を集めて活用しているのだろう？			
調べる	問い コンビニは、どのように情報を集めているのか？	【情報の種類】	知識①	資料⑦①
	・どのような方法で集めているのだろう。	【情報通信技術】		資料⑦②
	・どのような情報を集めているのか？	<分類>		資料⑦③
	・どれくらいの量の情報を集めているのか？	<関連付け>	知識②	資料⑦④
まとめる	問い コンビニは、集めた情報をどのように活用しているのか？	【情報の活用の仕方】	知識③	資料⑦
	・どこで情報を分析しているのだろう。	【販売業の変化】		資料⑦
	・開発された商品はどこで提供されているのか？	<関連付け>	知識④	資料⑦⑤
	・商品開発以外にどのような活用をしているのだろう。			資料⑦⑥
つなげる	問い 国民生活にどのような影響があるのだろうか？	(店舗の広がり)	知識⑤	
	・サービスを受けられる店舗はどれくらい広がったのだろう。	【販売業の変化】		資料⑦⑧
	・売り上げや利用者はどれくらい増えたのだろう。	<関連付け>		資料⑦⑨
	問い コンビニエンスストアの情報活用は、私たちの生活とどのように関わっているのだろうか？	【産業の役割】 【国民生活の向上】 【関連付け】	中心概念	
つなげる	追究結果 多様で大量の情報や情報通信技術の活用によって、販売業が発展し様々なサービスが提供されることで、国民生活の利便性が向上している。			
	問い 販売業以外の産業では、情報をどのように活用しているのか？	【情報の活用の仕方】	知識⑦	資料⑦ 資料⑧①
	問い これからどのように情報社会と関わっていけばよいのだろうか？	【国民生活との関連】		
	追究結果 大量の情報を活用して産業が発展するとともに国民生活の利便性が向上する一方で、情報を活用する私たちには、情報を適切に扱うことが求められている。			

③ 問題解決の中で、社会的事象の見方・考え方を働かせて、対話的に学び多角的に考える学習活動の工夫<つかむ>

・コンビニエンスストアの今と昔を比較し、変化したことへの気づきを出し合い確かめ合う話し合い活動<調べる>

・B社が集めている情報を分類して、情報の種類の多さを確かめ合う話し合い活動
・区内のコンビニ店舗の分布を地図にドットで整理し、全国の店舗数を地図に整理する活動
・コンビニA社の店舗数や売り上げ額を今と昔で比較し、変化について話し合う活動

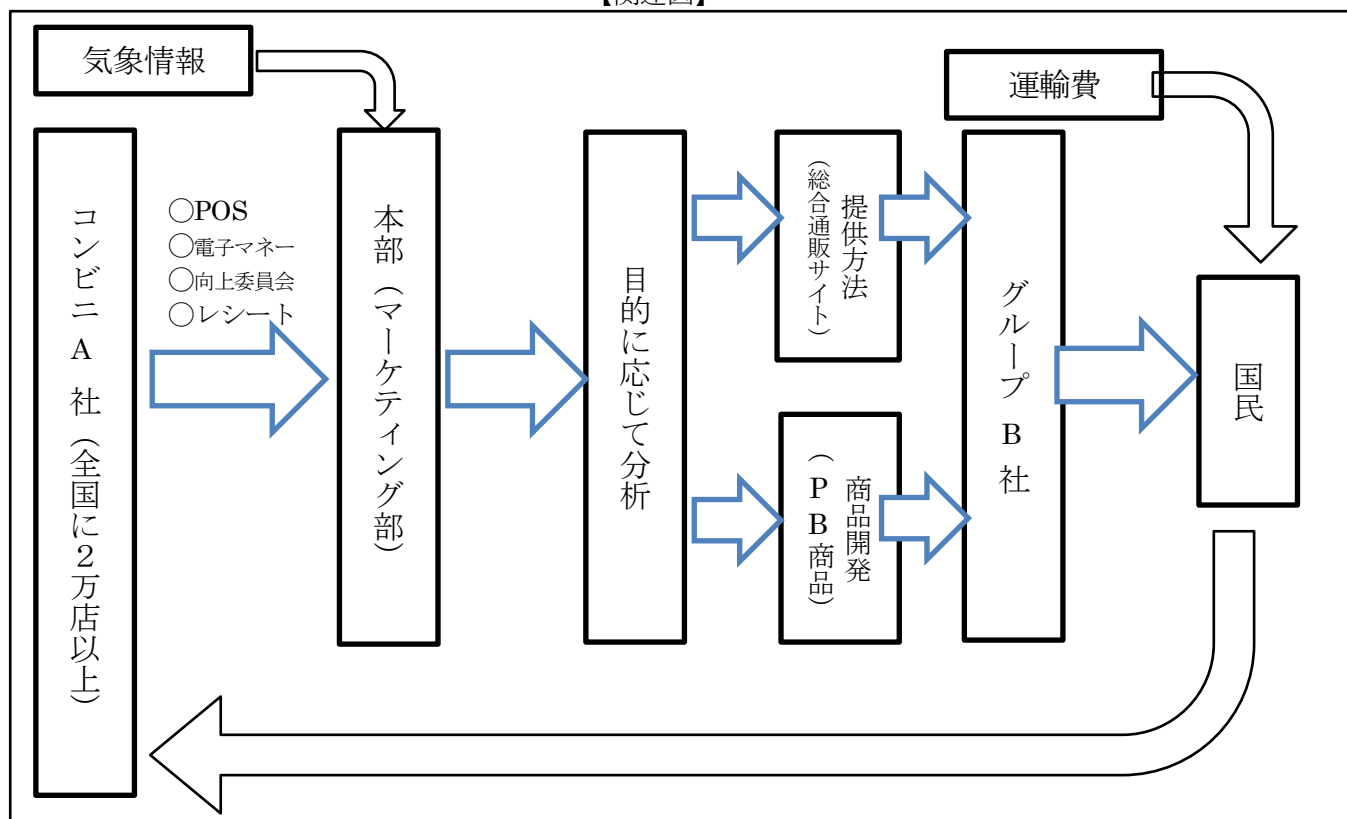
<まとめる>

・調べた情報の流れや相互の関係を関連図に整理して分かったことを話し合う活動
・A社、B社の情報活用と消費者（国民）としての生活の向上を関連付けて考え話し合う活動

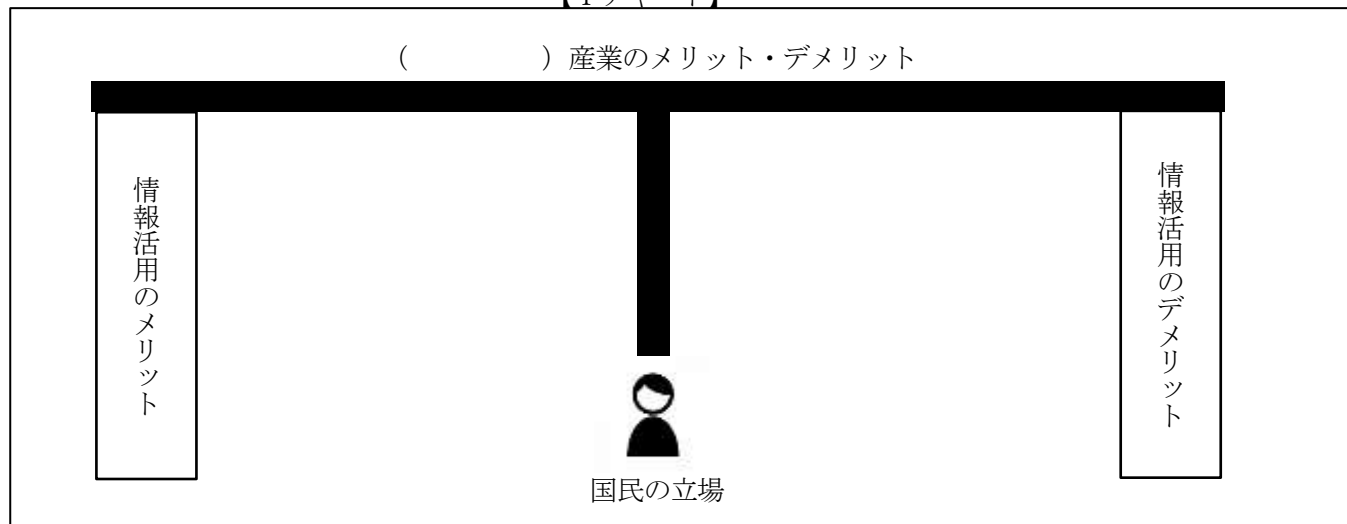
<つなげる>

- ・大量の情報を活用して産業を発展させている事例のプラス面とマイナス面をTチャート図に整理する活動
- ・進展する情報社会の中でのこれからの情報活用について考え、意見を交換する活動

【関連図】



【Tチャート】



④ 確かな社会認識をもとに、社会の発展を考える「つなげる」場面の設定

本小单元では、まとめる段階までに、販売業に関わる人々は、大量の情報を活用しながら消費者のニーズに応じて新しい取り組みを工夫していることが分かる。しかし、販売業以外の運輸・観光・医療等の産業を調べてみると、大量の情報が集まるが故に、自分が活用していきたい情報を正しく選ぶことが難しいことに気づく。

そこで、児童に「情報化が進展する社会の中で、情報をどのように活用していけばよいか」という問いをもたせ、情報産業と国民の立場から考えさせる「つなげる」場面を設定した。これからの情報産業の発展と国民生活の向上のためには、自分と実社会がどのようにつながっていくことがよいのかに気づかせることが

大切だと考えた。

さらに、情報社会のよさや課題について知り、情報を生かして商品販売やサービスを提供するよさや私たちの生活との関連について考える時間を設定し、情報社会の課題を提起する新聞記事やサイバー犯罪件数のグラフなどを調べ、個人情報の管理が問題となっていることやネット犯罪も多く起こっていること、便利だからこそ課題もあることを知り、これからの情報社会の中で自分が情報をどのように活用していけばよいかについても考える。

5 小単元の指導計画と評価計画 (8時間扱い)

学習過程	ねらい (着目する視点や方法)	○主な学習活動 問い ・予想される児童の反応	教師の指導・支援 (□留意点 ◎資料 ◆評価)
つかむ	①コンビニの販売の様子を知り、昔と今を比較することを通して、情報を扱う販売業と私たちの生活との関わりについて学習問題を設定し、予想を考え、学習計画を立てる。 (販売業の変化)	今のコンビニは、昔と比べてどのようなちがいがあろうか。 ○レシートや写真などから現在のコンビニエンスストアの販売の様子について話し合う。 ・遅い時間でも食べ物や飲み物を買える。 ・ATMでお金をおろせる。 ・公共料金も支払える。 ○昔と今のコンビニ店舗の様子を比べて、違いや変化について話し合う。 ・昔のコンビニには、ATMや書籍の販売はなかった。 ・買い物の仕方も変わっている。 ・売っている食料が変わっている。 ・コンビニは、ただ商品を売るお店から、色々なサービスを受けられるお店に変化している。 ○食料品の変化に注目し、値段が高いのに売れているプライベートブランド商品についての話し合いを通して、疑問に思ったことをもとに学習問題を考える。 ・売れない時代でも消費者の情報を活用すれば売れるなんて、どんな情報を集めているのかな。 ・消費者の情報ってどのようなものなのだろう。 ・情報をどのように活用しているのかな。 ・アンケートやインタビューなどを行っているのかな。 ・これらの商品は、どうやって生まれたのかな。	◎コンビニのレシート ◎公共料金の領収書 ◎ATMの明細書 ◎今と昔のコンビニの店内の様子の写真 ◎消費者の声 □消費者が求めているニーズが実現されていることに気づかせる。 ◎PB商品の写真 ◎値段が高い方のブランド商品(ハンバーグ)の売り上げの変化 ◎PB商品開発計画 ◎お店の方の話
	コンビニエンスストアは、消費者の願いに応えるために、どのように情報を集め、活用しているのだろう。		
		○A社の情報システムへの投資額を知り、学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。 〈予想〉 ・投資金額が500億円もあるので、パソコンなどの機械を使って情報を集めている。 ・年齢や性別、購入履歴をもとに、商品開発しているのではないかな。 ・情報を生かして、商品の開発だけでなく、色々なサー	◎A社の情報システム投資額(2017年からの投資計画は520億円) ◆主体的に学習に取り組む態度I (発言)

		ビスにお金を使っているのではないか。 〈学習計画〉 ・利用者を増やすためにどのような情報を集めているのだろう。 ・集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ・情報を活用することでどのような変化があったのだろう。	
調べる	② コンビニでは、様々な情報をどこからどのように集めているのかについて理解する。 (情報の種類) (情報通信技術)	コンビニでは、どのような情報をどのように集めているのだろう。 ○どのような情報をどこから集めているのか予想する。 ・レジからどの商品がいつどれくらい売れたかを集めていると思う。 ・カードから名前・年齢・性別の情報を集めているんじゃないかな。 ○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。 ・POS レジを通して、バーコードを読みとることで買った物の履歴が多く集まっている。年齢・性別は、店員が入力している。 ・カードから年齢や性別、購入商品・来店頻度を集めている。 ○総合情報システムの資料から、店舗で得た情報はどことどのようにつながっているのかについて調べる。 ・POS システムやカードの情報は、本部と結ばれ、つながっている。 ・情報は、様々なことに活かされている。 ・情報収集がシステム化されることによって、お店側もお客側もよいことが起きている。	◎コンビニのレシート ◎POS レジの写真, レジのボタンの拡大写真 ◎お店の方の話 ◎電子マネー (ポイントカード) 写真 ◎カード入会申込書 □ペアで「POS レジ」と「電子マネー (ポイントカード)」について調べる役割を変え、それぞれ伝え合う。 ◎総合情報システムの仕組みを伝える資料 ◎お店の方の話 ◆知識・技能 I (ノート)
	③ コンビニでは、様々な情報を収集し、商品開発やサービス向上に情報を役立てていることを理解する。 (情報の活用の仕方) (販売業の変化)	コンビニでは、集めた情報をどのように活用しているのだろう。 ○消費者のニーズをもとにどのような商品開発やサービスが開始されたか、予想する。 ・より美味しいものが食べたい。 ・子育てで忙しいから買い物になかなか行けない。 ・自分の都合で買い物物がしたい。 ○PB 商品の開発や総合通販サイトの仕組みについて調べる。 【PB 商品の開発】 ・価格の安さだけでなく、上質な商品を求めているお客が多いことが分かった。	◎消費者の声 □「PB 商品の開発」と「総合通販サイト」についてペアで分担して調べ、ジグソー学習をする。 ◎PB 商品の写真 ◎値段が高い方のブランド商品 (ハンバーグ) の

	・向上委員会を通して、お客のニーズを分析し、何度も味をリニューアルしている。 ○関係者の話を読み、ビッグデータだけでなく、アンケートやインタビューなどのアナログな調査も行っていることから、商品開発について考える。 ・手間もかけて開発しているんだ。 ・一つの商品を開発するためには、データと生の声など多くの情報をもとに開発されているんだ。 ・他の商品より値段は高いけれど、お客からも好評だ。 ・お客の生活もよくなるし、店の売り上げも上がっているから WIN-WIN の関係になっている。 【総合通販サイト】 ・ネットとリアルで新しいサービスだ。 ・自分の都合で買い物ができるから利用者も多いのでは。 ○サイト利用者と売り上げの推移や、利用者の声について調べる。 ・データ分析などを行ってお客のニーズに応えるサービスを考えることで、利用者も増え、売り上げにつながっている。 ・お客も生活しやすくなっている。 ・このサービスも情報を活用することによって WIN-WIN の関係になっている。 ○お互い調べたことについて交流し、まとめる。 ・コンビニでは、情報を活用して、様々なサービスを提供している。	売り上げの変化（グラフ） ◎PB 商品開発計画 ◎品質向上委員会に関する資料 ◎B 社（グループ本部）の方の話 ◎A 社（コンビニ）の方の話 ◎PB 商品利用者の声 □ビッグデータの分析だけではなく、アンケートやインタビューといった「アナログ」な調査も含めて分析されていることをおさえる。 ◎総合通販サイトの仕組み図 ◎サイト利用者と売り上げの推移（グラフ） ◎サイト利用者の声 □売り上げの推移や利用者の声を取り上げることで、産業の発展と国民の利便性の向上に気づかせる。 ◆知識・技能 I （ノート・ワークシート）
④コンビニが消費者のニーズを分析して開発したサービスは、様々なところで受けられるようになって理解する。 （販売業の変化）	国民生活にどのような影響があるのだろう。 ○コンビニの店舗数について調べる。 ・区内だけでも、これだけの数があるんだ。 ・2 万店以上もあるんだ。 ・沖縄県以外の全国に広がっている。 ・すぐ近くにたくさんの店舗がある。 ・つまり、これだけ多くの人が、これまでに学習したようなサービスが受けられるんだ。 ○コンビニの PB 商品が他のスーパーや百貨店で売られていること、通販サイトで購入した商品の受け取りが他のスーパーなども含めてできることを確かめる。 ・コンビニだけでなく、違うところでも買えるなんてすごい。 ・コンビニだけでなく、より多くのところで利用できて、とても便利だ。 ・コンビニの商品だけでなく、様々な商品が購入できるなんて。	◎区内にあるコンビニ店舗の分布図 ◎全国のコンビニ店舗の分布図 □空間的な視点を入れることで、サービスの広がりについて気づかせる。 ◎利用者の声 ◎販売者の声 □利用者と販売者それぞれの立場から考えることで、情報活用の良さに気づかせる。 ◎スーパー・百貨店の売り場の写真

		○コンビニやスーパーなどを傘下におくグループ企業（B社）について知る。 ・コンビニは、B社のグループの一員だったんだ。 ・150社もの会社が集まっている会社だから、より多くの人が利用できる。 ○B社の新しい取り組みについて知る。 ・これからも多くの情報を活用して、どんどん発展していきそうだ。	◎総合通販サイトに参加するグループの情報 ◎B社の組織図 ◎B社の傘下にある店舗の分布図 ◎複数企業間のデータ活用に関する資料 ◆知識・技能Ⅰ (ノート・ワークシート)
まとめる	⑤これまでの学習をもとに、情報活用における販売業の現状と自分たちの生活との関わりについて関連づけ、自分の考えをまとめる。 (産業の役割) (国民生活の向上)	コンビニエンスストアの情報活用は、わたしたちの生活とどのように関わっているのだろう。 ○これまで調べてきたことを関連図にまとめる。 ○関連図をもとに、学習問題の結論を文章でまとめる。 コンビニを運営する会社では、大量の情報や情報通信技術を生かして消費者のニーズに応えていくことで、売り上げや利用者を増やしている。また、情報活用が進んだことで、消費者が場所や時間を選ばずに、より便利なサービスを受けられるようになっている。	◎ノート ◆知識・技能Ⅱ (ノート・関連図) ◆思考・判断・表現Ⅰ (ノート)
つなげる	⑥販売業以外の産業では、どのように情報が活用されているのかについて調べ、様々な産業で情報が活用されていることに気づくことができる。 (情報の活用の仕方) (活用の比較)	販売業以外の産業では、情報をどのように活用しているのだろう。 ○観光業では、観光客のどのような情報を集めているのかについて予想する。 ・どんな食べ物が人気なのか。 ・お客がどのような行動をしているか。 ○観光業は、どのような種類の情報を分析して活用しているのかについて調べる。 ・観光業でもPOSデータの情報を活用している。 ・いろいろな情報を活用しているんだな。 ○その他の産業では、どのような情報を活用しているのかについて予想する。 ・医療でも多くの情報を使っているのでは。 ・水産業でも情報が使われていたな。	◎熊本県の観光スポット、特産品の写真 ◎熊本県の観光客数の推移 ◎観光に伴う情報の種類に関する資料 □次時で、情報を活用している産業について各自が調べられるように、見通しをもたせる。 ◆知識・技能Ⅰ (ノート)

⑦これまでの学習をもとに、情報活用における様々な産業と私たちの生活との関わりについて、自分の考えをまとめる。 (情報の活用の仕方) (活用の比較)	販売業以外の産業では、情報をどのように活用しているのだろう。 ○前時の学習をもとに、社会の中で大量の情報を活用して産業を発展させていこうとしている事例について資料を持ち寄って交流を図る。 運輸：交通情報を活用した渋滞解消 医療：臨床データを活用した薬や試料、技術の開発 観光：GPS を活用したニーズに応える取り組み ○それぞれの事例について、大量の情報を活用して産業が発展することのプラス面とマイナス面を発表し合ってTチャートにまとめ、情報活用における様々な産業と私たちの生活との関わりについての考えをまとめる。 ・情報が活用されることで、生活がとても便利になっている。 ・情報活用によって産業も発展している。 ・情報にたよりすぎると危険なこともあるのでは。 様々な産業が、大量の情報や情報通信技術を生かして発展している。 そのことにより、私たちの生活は便利になり、生活しやすくなっている。	◎各自調べてきた資料 □観光・運輸・販売・医療の産業で、情報を活用して今後の発展を目指す事例を各自で調べて、資料を持ち寄るようにする。 ◆知識・技能Ⅲ (Tチャート) ◆思考・判断・表現Ⅱ (ノート)
⑧情報社会のよさや課題について知り、情報を生かして商品販売やサービスを提供することのよさや、自分たちの生活との関連について考える。 (国民生活との関連)	これからどのように情報社会と関わっていけばよいのだろう。 ○情報社会の課題を提起する新聞記事やサイバー犯罪件数のグラフについて調べる。 ・個人情報の管理が問題となっている。 ・ネット犯罪も多く起こっている。 ・便利だからこそ、課題もある。 ○カードの入会申込書にある利用契約書について調べる。 ・わたしたちの情報は、知らないところで使われていることもあるかもしれない。 ○これからの情報社会の中で、情報をどのように活用していけばよいか話し合い、考えを記述する。 ・大量の情報を活用して産業が発展するとともに国民生活の利便性が向上する一方で、情報を活用する私たちには、情報を適切に扱うことが求められている。	□個人情報漏洩を伝える新聞記事 □サイバー犯罪の件数、検挙状況等のグラフ □電子マネー（ポイントカード）の利用契約書（抜粋） ◆主体的に学習に取り組む態度Ⅱ (発言) ◆思考・判断・表現Ⅲ (ノート)

6 本時の学習（2/8時間）

（1）本時のねらい

コンビニエンスストアでは、新しい商品やサービスの開発をするために、様々な種類の大量な情報をPOSレジやカードなどの方法を通して、本部と連携しながら集めていることを理解する。

（2）本時の展開

	○主な学習活動 ・児童の予想される反応	□指導上の留意点 ◎資料 ◆評価（評価方法）
導入	○前時までの振り返りをする。 ・学習計画で設定した問いが、今日のめあてだ。 コンビニでは、どのような情報をどのように集めているのだろう。 ○どのような情報をどこから集めているのかについて予想する。 ・レジからどの商品がいつどれくらい売れたかを集めていると思う。 ・カードから名前・年齢・性別の情報を集めているんじゃないかな。	◎コンビニのレシート
展開	○どのような情報をどこから集めているのかについて調べる。 ・POS レジでバーコードを読みとることで、買った物の履歴が多く集まっている。年齢・性別は、店員が入力している。 ・カードから年齢や性別、購入商品・来店頻度を集めている。 ○総合情報システムの資料から、店舗で得た情報はどことどのようにつながっているのかについて調べる。 ・POS システムやカードの情報は、本部と結ばれ、つながっている。 ・情報は、様々なことに活かされている。 ・情報収集がシステム化されることによって、お店側もお客様もよいことが起きている。	◎POS レジの写真 ◎レジのボタンの拡大写真 ◎電子マネー（ポイントカード）写真 ◎カード入会申込書 ◎お店の方の話 □ペアで「POS レジ」と「電子マネー（ポイントカード）」について調べる役割を変え、それぞれ伝え合う。 ◎総合情報システムの仕組みを伝える資料 □店舗の情報だけでなく、ネットワークで本部とつながっていることに気づかせる。 ◎お店の方の話 ◆知識・技能Ⅰ（ノート）
終末	○学んだことに対する振り返りを書く。 ・こんなに多くの情報が収集されているとは思いませんでした。ここまで多くの情報は、きっと多くの商品開発など、様々なところで活かされていると思います。 ・販売者の情報収集は、消費者であるわたしたちに何らかの形で返ってくると思います。販売者と利用者の関わりが情報を通してどのようになっているのかが気になります。	□本時の学習を振り返ることで、次時の問いを明確に想起させる。

(3) 板書計画

